

令和7年度 成瀬台中学校 学校評価アンケート分析

〈保護者の意見〉

【教育方針等全般】

設問 2、3、4に係る地域・保護者との連携・協力。学校公開に関して、全て 88%以上の肯定的な評価がある。その中でも、ホームページや tetoru、学校・学年だより等による情報発信は 90%、学校公開・教育活動の公開は 97%と肯定的評価は高い。設問 11 のきまりを守ることは 84%の肯定的評価であるのに対して、設問 14 のネットマナーが身に付いていることについては肯定的評価が 74%にとどまっている。

設問 12 のあいさつの励行については 90%、設問 18 の校内整備・校内美化については 87%の肯定的評価から、生徒が落ち着いて学べる学習環境の維持に学校は努めていると評価されている。

設問 21 の学校の教育目標や方針が分かりやすいことに関しても、84%の肯定的評価を得られているので、引き続き保護者会などの機会に学校の経営方針を示し、保護者協働的な関わりに対する理解と協力を得られるようにする。

【学校行事】

設問 19 の「体育祭や合唱コンクールに生徒が真剣に取り組んでいる。」について、97%の肯定的な回答が得られている。生徒の肯定的回答も 97%となっており、生徒の前向きな取組の様子が保護者や地域に伝わっている。また、運営面においても、昨年度に引き続き、保護者会や体育祭、合唱コンクールで保護者の入場時に二次元コード読取システムを導入し、短時間で円滑な誘導ができた。

【学習・読書】

設問 5 の「各教科の基礎的・基本的な事柄が身に付いている」では、76%と比較的高い（生徒肯定的評価は 87%）。各教科の授業内でタブレット端末を使う場面も増えており、設問 9 の「（生徒は）ICTを積極的に活用している」では、78%の肯定的評価で昨年度より微増である。

設問 22 の「学校の数学や英語の少人数授業は、効果的である」についての肯定的回答が 72%、設問 23 の「学校は、分かりやすい授業をするための工夫や改善が行っている。」については 68%となっており、教員が今後も積極的な授業改革に取り組まなければならない。

設問 7「学校ですすんで読書を行っている」では 50%の否定的評価が示され（生徒の否定的評価が 50%）課題としては大きい。また、設問 8 の英語学習に関する項目では、40%が楽しく取り組むことに課題があると感じており、英語の基礎・基本を身に付けさせるとともに、国際交流やALTなど英語を話すことの成功体験を増やすことで、英語を楽しく、主体的に学びに取り組む態度を育成する必要がある。

【生徒の様子】

設問 12 のあいさつの励行について、生徒の肯定的評価が 94%で高評価である。設問 11 の学校や家庭のきまりを守ることについて、生徒の肯定的評価が 95%、設問 14 のネットマナーが身に付いていることについて、生徒の肯定的評価が 94%であり、ほとんどの生徒の規範意識が高められており、望ましい成長が図られていることが分かる。設問 10 の人権教育に関する項目で肯定的回答をする生徒が 97%、設問 24 のいじめを防止する教育についても、生徒の肯定的回答が 84%となっており、生徒の心を育てる教育に一定の成果が表れている。設問 20 の「学校は楽しいと感じる」ことに生徒の肯定的評価が 87%であることに満足することなく、残りの 13%の生徒も含め、誰一人取り残すことなく、学校生活満足度や安心度を高めることが課題である。

令和7年度 成瀬台中学校 学校評価アンケート結果をふまえて

〈学校として〉

【教育方針等全般】

学校からの情報発信として、ホームページのコンテンツの充実とアクセスの利便性を図り、学校だよりや各種広報のデジタル化を推進します。また、Tetoruを活用して、教育委員会の通知や学校からの情報の公開を、即時性をもって行うとともに、ホームページの更新頻度を増やしていきます。

情報リテラシーの育成につながる広報活動については、学校図書館の新刊本紹介、文部科学省推奨映画・東京都推奨映画などの紹介などを行います。

生徒が落ち着いた雰囲気の中で、安心して学校生活を送ることができるよう、校内整備・校内美化などの環境面を整えることを継続すると同時に、生徒支援部を中心として、hyper Q Uや心のアンケートを実施し、生徒の声に耳を傾け、生徒の特性に合わせて、心情に寄り添った支援を行います。

学校全体のあいさつに対する意識は高まっています。今後も「（成瀬台中学校オリジナル）あいさつの歌」を活用しながら、あいさつの目的や効果など、生徒の自発的な行動につながる指導・支援を継続します。

【学校行事】

97%の生徒が学校行事に真剣に取り組んでおり、また、協働的な学習や異学年交流を通して成瀬台中学校の伝統を継承していこうとする姿勢があります。今後も、生徒実行委員会や生徒会の主体的な活動を支援し、「先輩の取組を見て、後輩が育つ」という流れをより進めてまいります。

校外学習や宿泊的行事の企画・運営には、引き続き保護者の経済的負担軽減の意識をもつと共に、行事をとおしてどのような力をつけさせるかを明確にし、生徒の達成感や自己有用感を育成する指導を実践します。

特別支援学級設置校であることを活かして、交流及び共同学習を推進します。通常の学級の生徒には、障がい特性を理解し、偏見や差別を抱かないことを学ぶ機会となり、特別支援学級の生徒には、大きな集団の中で様々な経験をとおして、自己肯定感や自己有用感を高められる機会となります。また、校内で特別支援教育に関する研修を実施し、教職員で情報を共有することで、生徒に意図的・計画的な指導を実践します。

【学習・読書】

「生徒指導提要」に基づく、教科の指導と生活指導の一体化に来年度も取り組みます。生徒の基礎的・基本的な学力の育成をするために、教員が毎時の授業の取り組むべき目標を明確に、授業終了時に振り返りを行うことで、1時間の授業でつけるべき資質・能力を明確にし、見通しをもった授業を展開することで、分かりやすい授業を行います。

読書教育・図書館教育の充実を図ります。朝読書の実施、ブックトークやビブリオバトルの取組をとおして、情操教育を実施し、表現力を育成します。

【生徒の様子】

来年度も引き続き、心の教育を充実させ、いのちの授業を推進し、自分も他人も大切にできる態度を育成します。授業・学習環境のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、人権に配慮した言葉遣いを指導することで、「安心・安全な学校」づくりを進めます。「町田市いじめ防止基本法方針」に基づいた組織的な対応やSOSの出し方に関する指導を通して、学校は楽しいと感じる生徒率 100%を目指します。